

COC Monthly News Letter

COC: Center of Community (地(知)の拠点)

Yamanashi Prefectural University

山梨県立大学の地域貢献
活動を毎月1回お届けします。

2017年1月号

Vol.

32

グローバルな知の拠点となる大学
未来の実践的担い手を育てる大学
地域に開かれ地域と向き合う大学

Topics

最新のニュース・話題など大学での出来事をお伝えします。

◇健康講座～ストレッチをとおしてからだのメンテナンスをしましょう!!～

2016.12.3(土)、池田キャンパスの第13実習室において、山梨県立大学地域交流センター健康講座「ストレッチをとおしてからだのメンテナンスをしましょう!!」を開催しました。講師にはエアロビクス Y's 代表 田中夕起子先生をお招きして、「からだの内側からきれいになるためには」のお話をうかがったあと、自宅で実施できるフットマッサージや全身のストレッチ方法を体験しました。講座には、地域の皆様28名と看護学部の学生10名が参加し、「楽しく身体のためにより体操を学ぶことができた。自宅でも継続して実施していきたい」や「身近な大学でこのような講座を企画してくれることはとても有り難い。今後是非継続してほしい」等のお声をいただきました。

◇第3回・第4回やまなし市民後見人養成講座

12月10日(土)に、第3回やまなし市民後見人養成講座が開催されました。

今回は、社会福祉士の宮沢秀一先生を講師としてお招きし、市町村や社会福祉協議会の活動から見た市民後見についてお話していただきました。市民後見人は、様々な機関と連携し、後見制度を利用する方の立場に立って活動をしていくことが求められる、ということ学びました。(総合政策学科3年 富樫 茜)

12月17日(土)に、第4回やまなし市民後見人養成講座が開催されました。今回の講座では、山梨県立大学人間福祉学部の柳田正明教授とNPO法人みつばのくろーばー代表の堀内直也さんを講師にお迎えしました。「障害者への理解と市民後見活動」という難しいテーマでしたが、柳田先生と受講生の皆さんとのやりとりで笑いが起こるなど、和やかな雰囲気の間でもありました。堀内先生の運営する託老所を特集したVTRには皆さん真剣に見入っていました。(国際政策学部 総合政策学科3年 勝山晶絵)



第3回

第4回

イベント情報

気になる話題の情報やためになる講習会や研修会をご紹介します。

◇保育リカレント講座『『気になる子』とその保護者への支援』開催のお知らせ

「気になる子」とその保護者への支援と題して、下記の日程で講座を開催します。

日時：2017年2月4日(土) 13:30~16:00

会場：山梨県立大学 飯田キャンパス講堂 (B館1階) (甲府市飯田5-11-1)

講師：前嶋 元 先生

□東京立正短期大学講師

□臨床発達心理士、特別支援教育士、社会福祉士

□日本福祉文化学会事務局長

対象：保育・教育関係者、一般、学生、その他 ※定員70名問い合わせ先

申込み：山梨県立大学地域研究交流センター(学務課)

□メール：ucre-accept@yamanashi-ken.ac.jp

□TEL：055-224-5260 (平日9:00-17:00)

①氏名 ②住所 ③電話番号 ④参加人数 をお知らせください。

今月のプロジェクト 大学が自信を持っておすすめするプロジェクトのご案内。

＜地域研究交流センターが支援する各種プロジェクトの研究教育活動における意義＞

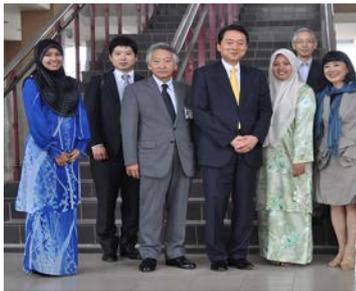
理事 山本 隆司

大学 COC でのプロジェクトでは、教員が地域の課題に着目して学生と一緒に課題解決の方策を提案するなど、地域の課題をゼミなどで取り上げて研究教育活動を行っています。本学が文部科学省の COC プロジェクトに採択されたのは平成 25 年であり、本年で 4 年になろうとしています。その間、本学の教員により実施されたプロジェクトは、平成 25 年度 12 件、平成 26 年度 14 件、平成 27 年度 18 件、平成 28 年度 12 件となっています。それらの多くは地域における長年の懸案事項であったとも言える重要な課題でした。

大学の教育では、個々の地域課題を研究テーマとして取組み、教員と学生がゼミ等で多方面からそれらの課題を時間をかけて種々検討する作業を行います。このような地道な作業がまさにアクティブラーニングと呼ぶにふさわしい教育なのです。これらの過程を通して、課題の解決策を見つけ出す手法は、どのような課題の解決にも適用できる普遍的な手法です。このような手法を修得することによって教員および学生は、ともにより普遍性のある研究手法を身につけることができます。その過程で培った力は、課題がどのようなものであっても、解決できる源となるものなのです。

本学は Global と Local を共に睨んだ Glocal を研究教育の根幹に据えています。地域の課題の解決能力は、グローバルな課題の解決力にもなるのです。そのような観点からも本学では地域課題に積極的に取り組んでいます。

担当教員紹介 個性派揃いの優秀な教員の意外な素顔を紹介します。



マレーシア滞在中に日本からの来訪者に挨拶する山本理事
上から、鳩山友紀夫元首相、安倍晋三首相、興石 東前参議院議員会長

＜理事 山本 隆司＞

私は 2009 年東京にある国立大学を定年退職した後、泰日工業大学 (<http://www.tni.ac.th/>、タイ・バンコク) およびマレーシア・日本国際工科院 (MJIT : Malaysia-Japan International Institute of Technology : <http://mjiit.utm.my/>、マレーシア・クアラルンプール) の研究教育・大学運営に関与して、2015 年 4 月に本学に赴任しました。上記のいずれの大学も持続可能な産業・社会を構築するために、日本型の工学教育に学び、また工学領域において卓越した教育と研究を行うことを教育目標に掲げています。両校は、研究活動の重視、優れた教授陣の配置、学生同士の相互連携を推奨するだけでなく、日本語および日本文化の修得、日本人の普通に有する職業倫理、質的に優れた労働意識などを基盤として学部および大学院の教育プログラムを実践しています。私は、MJIT では副院長として日本の技術や教育システムの導入と研究開発活動を推進することに参画してきました。

(http://www.life.tsukuba.ac.jp/activity/yamamoto-sensei_taikankouen.pdf 参照)。

MJIT は、マレーシア工科大学 (UTM) の傘下に設立されたものですが、1981 年にマハティール首相 (当時) が提唱した東方政策の集大成として位置づけられる事業でした。

私の専門は機械工学、とくにトライボロジーという研究分野に長年携わってきましたが、本学では COC+に関連する地域関連科目としての「モノづくりデザインの基礎」を担当しています。また、2000 年から、ISO - International Organization for Standardization (国際標準化機構) の技術委員会 TC123 (Plain bearings ; 自動車ガソリンエンジン、各種ディーゼルエンジンの主軸を支える軸受) に関与してきました。

2008 年から 2010 年に国際幹事 (Secretary) に選任され、今年 2017 年 1 月 1 日付で国際議長 (Chairperson) に選任されました。

http://www.iso.org/iso/home/standards_development/list_of_iso_technical_committees/iso_technical_committee.htm?commid=52090。